



冬休み直前号 しらほだい 令和元年 12月24日(火)

校 訓 やさしく かしく たくましく

「 おかげさまで 」

内灘町立白帆台小学校 校長 岡田 秀

今年も保護者の皆様、PTA役員の皆様、防犯ボランティアや図書ボランティアの皆様、更には地域の皆様には、様々な場面で本校の教育活動にご理解とご協力をいただきました。おかげさまで学校は、子どもたちのたくさんの笑顔と明るく元気な声にあふれました。本当にありがとうございました。心より御礼申し上げます。

『一月一日の 初日の出を拝む人は多いが、十二月三十一日の 夕日に手を合わせる人はほとんどいません。しかし、一年最後のときに、さまざまな出会いの中で自分が生かされていることに感謝することで、はじめて、次の年を豊かな心で迎えることができるのではないのでしょうか。』



福岡県にある南蔵院というお寺の林覚乗住職の言葉です。

私は信心深い人間ではないのですが、この言葉を年の瀬が近づくこの時期に思い出すようにしています。そして毎年、ゴツンと頭を叩かれたような気持ちにさせてもらっています。～「当たり前」に過ぎてきたいろんな事を振り返ってみる。「当たり前」に思っているかも知れませんが、本当は「当たり前」ではないんじゃないか！普段のことが、「当たり前」のことだと勘違いしてないか？おかげさまで気持ち、忘れてないか？～

子どもたちには、人や周囲に感謝する気持ちをもって育てて欲しいなと常々思っています。そのためにも、私たち大人が、普段の子どもたちの様子も含めた「当たり前」に見える周囲の物事に対して、「決して当たり前ではないんだ」という気持ちを忘れずにいることが大切なのではないか、と思うのです。そうやって子どもたちの1年を振り返ってあげることも、子どもたちを育てることにつながるように思うのです。

子どもたちには、今後も是非、様々な場面での温かい声かけをどうぞよろしくお願いいたします。そして、新年も「相手の気持ちを思いやる子」「自ら考えを表現する子」「目標を定め努力する子」、そんな白帆台小学校の子どもたちが育つよう、教職員一同力を合わせて取り組んで参りますので、何とぞよろしくお願いいたします。



寒さはまだまだこれからが本番。皆様方、健康には十分ご留意され、どうぞよいお年をお迎えください。